

人が自然に繋がる、参加型の空間施工ワークショップを もっとオープンに、もっと皆と！



きっかけ

これまで地域の集まりに参加されていなかった様々な方が、**手を動かして施工をすることを通じ、自然に、無理なく親睦を深めることができる**。「集まること」が少し苦手でも、ふらっと参加し交流できる。当時、建築ではなくコミュニティデザインを学んでいた私は、その光景を見て建築ワークショップに惹かれ、建築学へと転向しました。

各地での建築作り自体が地域の人同士の新しい接点となっていく。そして、それを担うプレイヤーも増えていき、そんな場所が増えていくとともに、街ごとに特色ある風景もできていく。そのような光景、人景を実現することを目指しています。

これまで、大学のパブリックスペースや、まちなかのカフェなど、数々のワークショップを一般のかた向けに主催してきました。しかし、ワークショップを開催しても、もともとDIYに興味がある人や、新しいもの好きな人しか来ず、それ以外の層になかなか浸透できていませんでした。ワークショップを広げて、建築、そしてコミュニティの接点をつくるだけでなく、それを主導するプレイヤーも増やしていくための仕組みを、今回考えました。

建築屋台って、何？

DIY・施工するための工具が入った「屋台」と、施工を支援するファシリテーターがセットで派遣され、不特定多数の一般の方を巻き込んで空間をつくる、路面展開される建築ワークショップのための屋台です。

従来、閉じがちだった建築・空間作りのワークショップを、屋台というかたちで開き、**人同士の自然な接点となる参加型の施工**と、プレイヤーを増やすためのものとして、スタートしました。

屋台の特徴



立ち寄り易い屋台と、多様な関わり方の許容

敷地の前に屋台を設置して、屋台上で設計～施工を行います。チラシと回覧板での告知を受け、施主、近隣の方のほか、ホームページ、公式LINE、Xに掲載される要項をもとに、遠方の方でも参加可能です。通りがかりで、少しだけ参加することもできます。

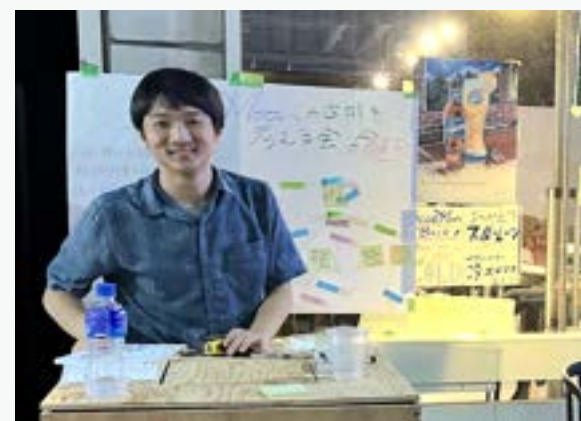
施工を通じたコミュニティハブになるためには、**施工するだけが参加ではありません**。街の人が見えるところで、一生懸命つくる人が居つつも、ちょっとペンキを塗ったり、ただ話すだけだったり。もっと、色々な関わり方はできないだろうか。機動性が高く、ふらっと立ち寄りやすい。そして、終わったら、道端で軽くオフ会もできる、そんな空間はできないかと考え続け、最終的に屋台に行きつきました。



工具と、ファシリテーターがやってくる！

工具一式が入った屋台と、ファシリテーターが、セットで派遣されてきます。基本的に必要な工具、バッテリー式インパクトや電動丸鋸なども備えています。都心部は、ホームセンターが少なく、家に工具を持ち合わせていたり、スペースを持っている家が少ないためハードルが高かった

ファシリテーターは、楽しさを感じてもらえるプログラムと施工手順を考え、電動工具の使い方から、空間の考え方、建物の豆知識まで、手を動かしながら丁寧に説明します。最終的に、自分たちでセルフビルド改修の立案から施工ができるようにレクチャーしていきます。



つくるを主導する、仲間を増やす屋台

慣れてきたら、ファシリテーターのサポートを卒業して、道具だけ借りて自らの手で作ることが推奨されています。

最終的には、私たちのサービスを卒業し、自分で空間をいじり、考えることができるようになることがゴールです。

尚その際は、屋台の工具を、一点から、中古価格で買い取ることもできます。また研修を受け、認定されると建築屋台のサポートスタッフ、屋台を自身で別に展開して、施工ワークショップを行うこともできます。

何をつくれる？

屋台と、ファシリテーターは1日単位でのレンタル・出張です。レンタル日数によって、施工できる規模が変わってきます。

街の小さな花壇作りから、自治会館といった街の公共スペースの小改修まで、屋台一台で幅広く対応できます。



対象は？

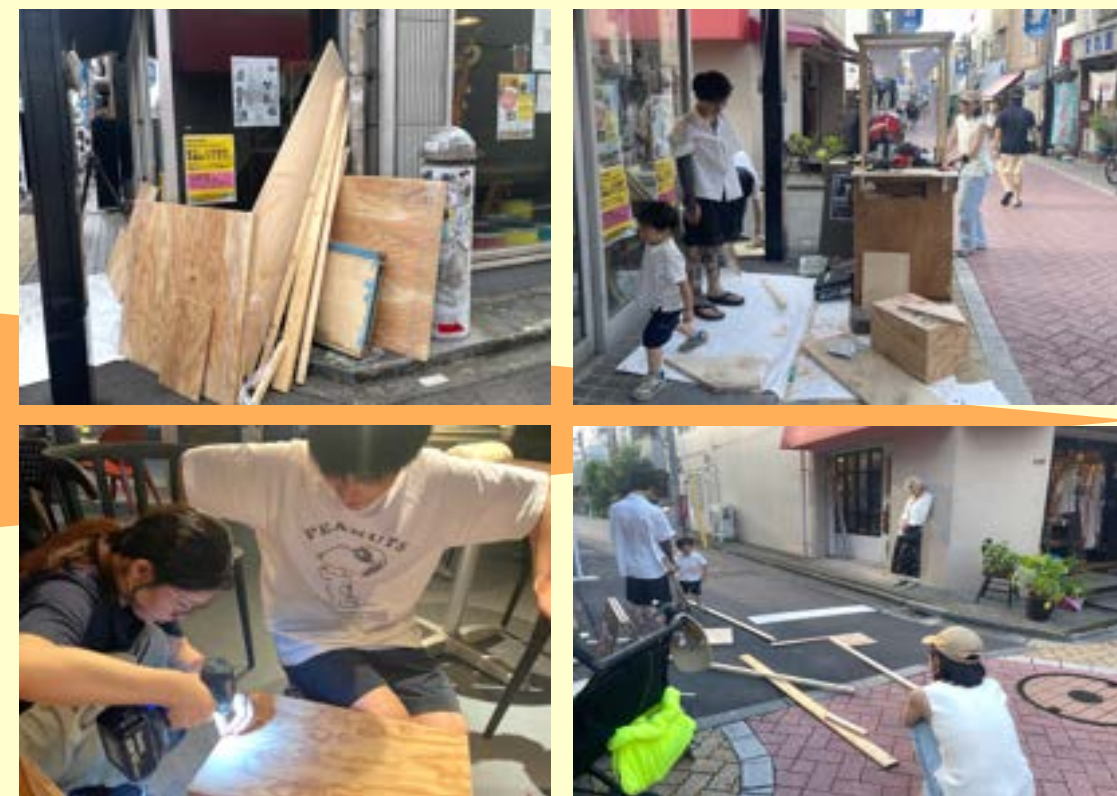
街の人がふらっと訪問できる、コモンスペースのような場所を作りたいかたが対象です。

- ・自治会所有の自治会館の参加型改修工事
- ・障がい者雇用支援団体の施設の参加型改修
- ・某会社 1F 地域に開く、コミュニティカフェの設計 / 参加型改修

といった、施工を通じて街に開きたい、街の人ともっと知り合いたい方に、現在実際に検討いただいております。

施工の流れ

先日、実験運用が行われた高円寺の Cafe and Bar BLUEMOON の本棚づくりの様子。地域の人を巻き込んだインキュベーションスペースとして、本棚を皆で考えてつくりたいという要望でした。



依頼・下見

施主さんは公式LINEで、建築屋台に相談。下見の際に、ざっくりとした空間イメージと、ワークショップ像をお伺いし、施主さんと建築屋台の設計方針とのすり合わせを行います。

この際、おおまかなレンタル日数を決定します。材料費はアイデア練り、設計が終了した段階で決定しますが、大まかな予算は王が紹介します。

アイデア練り

敷地前の路上に、この日から屋台とファシリテーターが出張します。アイデア出しフェーズから現場前の路上で公開。付箋と大きな模造紙、ぶろッキーなどを広げ屋台上で施主、関係者を中心に考えながら、周りにいるご近所さん、通りすがりの人にも口を突っ込んでもらいます。

高円寺では、地域の人や、通行人、隣の店主さんなど、最終的に20名弱の方にご参加いただきました。

詳細詰め・設計

施主と紙にスケッチをし、寸法を入れながら詳細を決めていきます。

図面が必要な際は、その情報をもとに施主もCADの使い方を学びながら、図面を作成します。

通りすがりの人が覗いたり、ときどき口を突っ込んだりするなど、軽めのやりとりが絶えません。

つくる！

一番、参加者が多いのが実際に作るフェーズです。工具の使い方からレクチャーし、実際につくっていきます。つくりながら、親睦が深められるようファシリテート、人同士の協働をコーディネートしながら進めていきます。

また、施工しながら、空間のプラン方法や、家の技術的な豆知識の紹介もし、空間を自分だけでもある程度弄れるようになるための知識も教授していきます。